

教 師 ノ ー ト

日付	2017年 9月17日
単元	基本的な教理・2
テーマ	子とされること
タイトル	救い・4 神さまの子とされる
テキスト	ヨハネ1:12
参照箇所	ヨハネ3:1、ローマ8:14-17、ガラテヤ4:4、マラキ2:10、ヨハネ1:13、詩篇103:8、エペソ4:32、ローマ5:10、出エジプト4:22、エレミヤ31:9、ホセア11:1
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ヨハネ1:12
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	
<p>□導入</p> <p>救いというのは、単に罪が赦されるだけではありません。今日は、イエスさまを信じると、神さまの子どもとされるというお話です。</p> <p>※子どもたちは、「イエスさまは私たちの罪のために十字架にかかってくださった」という具合に、救いを平面的にとらえてしまいます。しかし、救いは立体的です。贖い・赦し・義認・新生・和解など、この単元ですべてを扱いきれないほど、さまざまな側面があります。</p> <p>□ポイント1 私たちが神の子と呼ばれるために、神さまはすばらしい愛を与えてくださいました</p> <p>「私たちが神の子どもと呼ばれるために、…事実、いま私たちは神の子どもです。…御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょう。」(ヨハネ3:1)。</p> <p>もともと人間は神さまに造られたのですから、まさに神の子どもであるはずでした。「私たちはみな、ただひとりの父を持っているのではないか。ただひとりの神が、私たちが創造したのではないか(マラキ2:10)。しかし、罪の心が神さまに反抗し、その関係を壊しました。神さまの子どもであるというすばらしい特権を失ってしまったのです。</p> <p>しかし、私たちが再び神の子と呼ばれるために、神さまは、すばらしい愛を注いでくださいました。その愛とは、イエス・キリストの命の犠牲です(ローマ5:8)。神さまの方から、家出した子どもを捜し、受け入れてくださり、本来の親子関係に回復してくださったのです。「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである」(ヨハネ1:12-13)。</p> <p>□ポイント2 神さまは私たちのお父さんです</p> <p>1. 神さまは単なる裁判官ではありません。先週は、イエスさまを信じた人は最期の裁判で義と認められることを学びました。それと同時に、「その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権」が与えられます(ヨハネ1:12)。これは、本当にうれしいことです。なぜなら、神さまがもし、単に私たちに無罪を言い渡す裁判官だったとしたら、その時点で、裁判官の仕事は終わりです。裁判官は、私たちに無罪判決を言い渡すだけで、その後の私たちの幸せのために関わりをもってはくれません。しかし、<u>子どもとされる</u>ということは、<u>継続して神さまの愛と祝福を受けることができる特権</u>です。</p> <p>また、もし神さまが単に裁判官なら、神さまにとって、私たちが律法に合っているかどうかだけが問題となります。しかし、私たちは、律法の下から贖い出され、神さまの子としての身分を受けるようになったのです(ガラテヤ4:4)。父である神さまは、情け深く、心優しく、私たちが赦して下さるお方です(詩篇103:8、エペソ4:32)。お父さんである神さまは、私たちが継続して赦して下さり、平和な関係でいてくださいます(ローマ5:10)。</p>	

☞ 父は私たちが懲らしめることもあります(箴言3:11-12)。しかし、それこそ、神の愛のゆえなのです(ヘブル12:11、箴言13:24、22:15、23:14、29:14-17、黙示録3:19)。

2. 私たちは単なる奴隷ではありません。神さまは、私たちのお父さんですから、私たちは、単に神さまの奴隷ではありません。もし、私たちが、単に代価を払って買い取られたのなら、奴隷の身分です。しかし、買い取られたと同時に、子とされたのです。「神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、『アバ、父。』と呼びます。私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます」(ローマ14-16)。
ですから、神さまは、自由を奪うようなことはなさいません。自由に選択する権利が与えられており、自分の気持ちを、自由にお父さんに伝えることができる立場にいます。また、私たちを見張るのではなく、見守ってくださるのです。私たちは、神さまに従うのですが、奴隷のようにではなく、主人に対するおそれからではありません。父の愛に応じて、父に従うのです(ヨハネ14:15,21、15:14-15)。

☞ 「アバ、父。」とは、イエスさまが使っていたことばで、父親への親しい呼びかけです。イエスさまを信じる人は、神さまに「ねえ、パパ」とか「あのね、父さん」という感覚で呼びかけることができます。

3. 神さまは私たちが捨てません。神さまは、イスラエルを「わが子」と呼んでいます(出エジプト4:22、エレミヤ31:9、ホセア11:1)。イスラエル人は、何度も神さまに背き、反抗しましたが、神さまは彼らを見捨てませんでした。神さまは、イスラエルと呼ばれたヤコブに、「決してあなたを捨てない」と約束してくださいました。神の子とされた私たちは、どんなに弱くても、失敗しても心配しなくて良いのです。失敗したら叱られる、ヘマばかりしていると見放されるというような恐れを持つ必要はありません。

ポイント3 私たちは、神さまの相続人です

「もし子どもであるなら、相続人でもあります。」(ローマ8:17)。

相続とは、受け継ぐ人のことです。特に、親が持っている財産などを受け継ぐ人のことを相続人といいます。私たちは、父なる神さまの相続人です。神さまのもっているものを、受け継ぐことができます。

神さまは私たちに、御子イエスさま、永遠のいのちなど、すばらしいものを私たちにくださいます。神さまは、私たちが必要とするものは全て与えてくださいます。愛・喜び・健康・幸せ・自由・家族・友だち・知恵・みことば・御霊の実・やさしさ・素直さ・なぐさめ・輝き・将来の夢・チカラ・食べ物・おもちゃ・・・、神さまのところには、それがもう備えられています。私たちはそれらを受け継ぐ相続人です。神さまに何でもお願いすることができます。

☆天のお父さまの資産にはどんなものがあるでしょう？一緒に考えてみよう！

□結論 イエスさまを信じると神さまの子どもとされます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1: イエスさまを信じた人は、神さまの子どもです。お父さんと親しくなりましょう。

1. お父さんの愛の中で心やすらぎましょう。決して見放すことなく、あなたの幸せを1番に考えてくださる父なる神さまに、何でもお話しよう。喜びも悲しみもどんな気持ちも全部受け止めてくださるよ。
2. お父さんからたくさん学ぼう。お父さんと遊びながら色々教えてもらうように、教会や聖書と親しみ、楽しんで学ぼう。お父さんのすばらしさをたくさん吸収しよう。

例2: イエスさまを信じて、神さまの子どもになろう！ イエスさまを信じている人は、イエスさまを伝える人になろう。相続人である私たちは、永遠のいのち・愛・喜びなど、神さまから受けたものを、他の人にも分けられるのです。救いを伝えて、みんな神さまの家族になろう！